

感染症部会の目的

近年、様々な地域で新たな感染症が出現し、熱帯地域を中心として様々な新興・再興感染症が流行してきた。文部科学省では、これまでこうした感染症への対策の根幹を支える研究を推進してきた。令和8年度末には、現在行っている新興・再興感染症基盤創生事業の事業期間を迎えることもあり、文部科学省 科学技術・学術審議会 研究計画・評価分科会ライフサイエンス委員会の下、我が国における今後の感染症分野の研究開発・人材育成等の推進に係る方策を検討するため本作業部会を開催する。

作業部会の進め方

スケジュール

- | | |
|------------|---|
| 第1回（1月28日） | ・作業部会の主旨・進め方について
・有識者ヒアリング（これまでの海外研究拠点の取組及び成果） |
| 第2回（2月17日） | ・有識者ヒアリング（感染症研究人材育成について・モニタリング体制の強化に関する取組） |
| 第3回（3月13日） | ・有識者ヒアリング（BSL4施設を活用した研究の取組・コロナ禍の取組・他事業連携） |
| 第4回（3月17日） | ・有識者ヒアリング（病原体共有の取組について）
・論点中間報告 |
| 第5回（4月7日） | ・感染症研究の推進に関する作業部会報告書（案） |

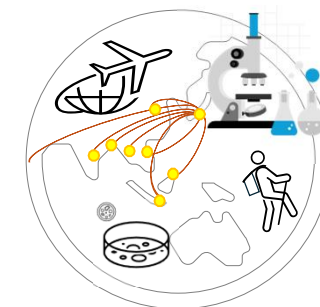
委員一覧

- | | |
|--------|--|
| 大曲 貴夫 | 国立健康危機管理研究機構
国立国際医療センター 副院長 |
| 川上 英良 | 千葉大学 国際高等研究基幹 教授 |
| 小柳 義夫 | 京都大学国際高等教育院 特定教授 |
| 鹿野 真弓 | 東京理科大学薬学部 嘱託教授 |
| 鈴木 基 | 国立健康危機管理研究機構
国立感染症研究所感染症疫学センター長 |
| 舘田 一博 | 東邦大学 医学部 教授 |
| 多屋 馨子 | 神奈川県衛生研究所 所長 |
| 山野 佳則 | 日本製薬工業協会 国際委員会・グローバルヘルス部会・感染症グループ・創薬促進検討SGリーダー |
| 渡辺 登喜子 | 大阪大学 微生物病研究所ウイルス分野 教授 |

（敬称略・五十音順）

ヒアリング事項

- ・ 新興・再興感染症研究基盤創生事業の取組と成果について【杉浦互（新興・再興感染症研究基盤創生事業PS）】（第1回）
- ・ 感染症基礎研究人材の育成について【舘田一博（東邦大学 医学部 教授、感染症学会 理事）】（第2回）
- ・ モニタリング体制の強化に関する取組について【齋藤智也（JIHS 感染症危機管理研究センター センター長）】（第2回）
- ・ BSL4施設を活用した研究の取組について【杉浦互（新興・再興感染症研究基盤創生事業PS）】（第3回）
- ・ 新興・再興感染症研究基盤創生事業のコロナ禍の取組について【杉浦互（新興・再興感染症研究基盤創生事業PS）】（第3回）
- ・ 他事業連携の促進について【小柳義夫（京都大学国際高等教育院 特定教授、AMED 感染症プロジェクト PD）】（第3回）
- ・ 病原体共有に関する取組について【鈴木忠樹（JIHS 国立感染症研究所 感染病理部長）】（第4回）



感染症研究の推進に関するこれまでの取組及びその課題

これまでの感染症研究の取組及びその成果

- 感染症の流行しやすい11か国に海外研究拠点及び海外研究拠点間のネットワーク強化等を目的としたNWコア拠点と合わせて12拠点の研究拠点を整備することで、感染症流行地以外では実施が困難な質の高い多様な研究を推進するとともに、グローバルな感染症情報の収集等による感染症モニタリング体制を構築。
- 我が国の感染症研究人材のすそ野を拡げる観点からも拠点外の研究者にも門戸を開きつつ、感染症領域に閉じない異分野融合研究を行うことで、新興・再興感染症に対する先端的な研究を実施。
- 感染症流行国における実地疫学の経験を通じた、グローバルな視点と実務能力を兼ね備えた疫学人材を育成。また、事業で育った研究者が新型コロナウイルス感染症パンデミックにおける厚生労働省クラスター対策班等での活動を通じた我が国の感染症有事対応にも貢献。
- AMED-CRESTとの連携を図るため要件に盛り込むことで連携が加速した。さらなる発展が期待される成果2件に対してAMED調整費も追加され成果創出が加速した。また、感染症に関するAMED内の会議体にマッチングの強化を目的に追加して議論を開始している。
- 長崎大学が特定一種病原体等所持者として、また、長崎大学BSL4施設が特定一種病原体等所持施設として指定され、引き続き長崎大学等において、BSL4施設の活用に向けた体制整備・人材育成を推進するとともに、一種病原体を所持しているJIHSと連携を強化することでBSL4施設を活用した基礎研究を推進。
- 上記取組での成果をもとに、国内や海外の大型の資金を多数の課題で獲得。

感染症研究の必要性とその課題

- 新興・再興感染症分野におけるアカデミア主導の基盤・基礎研究を行うことは重要。今後の海外研究拠点の支援の在り方について検討が必要
- 1つの拠点での研究にとどまらず、近隣地域における拠点間コンソーシアムの構築など、各拠点・地域の特色を生かした連携の推進が必要
- 海外研究拠点に、研究・疫学・医療人材育成を包括的に進めるための、体制整備をすることも検討が必要
- 国際的な枠組みを尊重しつつ、我が国の感染症モニタリング体制を構築する必要。そのためには、平時の感染症モニタリング体制の高度化及び有事に備えた体制整備が必要。また、すでにある海外におけるネットワークを活用した連携が必要
- 今後の感染症研究を担う国内外の大学院生・若手研究者による海外拠点の活用促進等による人材育成への重点的投資が必要
- 基礎・臨床・疫学の連携強化及びAI・データサイエンス、人文・社会科学等の新規分野研究者の参画促進により感染症研究のすそ野を拡げる必要
- エボラウイルス等の病原性の高い病原体による重篤な感染症への対策は国際的に大きな課題。我が国においても、引き続き地域住民との相互理解を深めながら、BSL4施設を活用した研究を推進していく必要

様々な新興・再興感染症に対応するためにも、継続的な基礎研究の充実・人材育成の強化、感染症情報の早期検知・研究開発動向の把握を目的とした国際ネットワークの構築など有機的な国際的な連携の強化を行っていく必要がある。

今後の感染症研究の在り方

海外研究拠点における国内では実施が困難な感染症研究を通じたこれまでの成果を踏まえ、引き続き新興・再興感染症に関する基礎研究を継続するとともに、成果の社会実装を見据えた応用研究や臨床開発への展開を図っていく必要がある。さらに、感染症有事に備え感染症モニタリング体制の深化を進めるとともに、拠点間の連携を強化するなど、グローバルな共同研究の推進を強化していく必要がある。

あわせて、これらの取組のためにも、今後の感染症研究を担う人材の育成を目指し、海外拠点を活用した教育・研究の機会を充実させるなど支援の在り方についても検討を進め、取組を推進する必要がある。

感染症法に基づく一種病原体等に関する研究は、完成したBSL4施設の活用、それらを取り扱う高度な研究を担う人材育成を進めることが我が国の健康医療安全保障を確保する上でも必要である。

今後推進すべき取組・検討事項

海外研究拠点における研究

- 国内では入手困難な病原体研究ができる海外研究拠点の維持・強化
- 拠点・地域の特性に応じた評価の確立
- 拠点間連携による共同研究の促進
- 基礎・臨床・疫学分野の連携した研究課題の推進
- 継続的な取組のための大学ガバナンスの強化の要件化

等

海外研究拠点をつなぐ取組・モニタリング体制の強化

- 拠点間・研究者間マッチングなどの海外研究拠点間連携の促進
- 平時からのシミュレーションも含めた体制構築、感染症有事での実働できる感染症モニタリング体制の構築
- 諸外国の海外拠点の例を参考に、我が国としての強化方向性の検討
- 国際的な枠組みを尊重しつつ、我が国の国益に資するために拠点の蓄積した情報・検体の管理の検討

等

感染症研究人材の育成

- 海外研究拠点活用・多分野融合領域の支援の拡大
- AI・データサイエンス、人文・社会科学など、これまで感染症分野への参入が少なかった領域の研究者の参画促進
- 国内外の若手研究者の興味・関心を引くような支援・取組の検討
- 臨床人材を基礎研究に参画を促進させるための取組の導入
- 若手研究者を中心として海外フィールドを経験できる取組の検討

等

BSL4施設を活用した一種病原体等研究

- 国内の感染症に係る基礎研究能力の向上及び危険性の高い病原体等の取扱いに精通した人材の育成をするための準備研究を含む基盤研究の推進

その他

- 他事業との連携や外部資金の獲得。また、成功例の横展開
- 海外インナーサークルへの参入のためのネットワーク構築

等

等

国際連携のもとで国内外の研究基盤と人材育成をさらに充実させ、感染症に関する基礎から応用・臨床まで一貫した研究を推進し、有事に備えた高度なモニタリング機能・対応能力を確立することで、我が国の健康医療安全保障を強化